

2016年活動スローガン「Love Over The World 輝く子ども達の未来に愛を!!」

報 告

2016年7月～10月支援分

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

- ・会員有志の方々よりカバシア郡の学校へトイレを7基
- ・「丸山鍼灸院」様よりカバシア郡の学校へトイレを1基
- ・長町ゆかり様よりカバシア郡の学校へトイレを1基
- ・中村亨様よりカバシア郡の学校へトイレを1基

●その他の寄付

- ・会員有志の方よりYURIKOエンゼルスクールへ図書220冊

〈スリランカ〉

8月に「スリジナラタナ社会福祉協会」へ奨学金として同代表のニャーナランカーラ氏を通じて20万円を寄付

〈国内活動〉

●熊本地震支援

9月に熊本県益城町の児童養護施設「広安愛児園」に小規模児童養護施設再建基金として30万円を寄付

イベント情報

10/19 (水) 秋のチャリティバザー

場所：本協会ボランティアセンター（伊丹市）

時間：10：00～14：00

●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、寝具、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバンなどいつでも受付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆ 家具、使用済み食器等

編集後記

リオオリンピック・パラリンピックでは、選手達の奮闘により日本も多くのメダルを獲得し感動のうちに閉幕しました。大会前には現地の準備不足や治安面の不安も伝えられていましたが結果は大成功！その陰には、観客の案内や通訳など多くのボランティアの人達の活躍があり、時にはジョークを交えた楽しい案内が好評だったそうです。国際エンゼル協会では、秋のバザー、各地のバザーなどの準備にボランティアの皆さんも笑顔で頑張っています。今日も明るい笑い声がボランティアセンターに響いています。

2016年行事予定

10月現在

15(土)	ノクシカタ販売	JR防府駅てんじん口広場	防府市
19(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
22(土)	チャリティバザー	海南市民交流センター	海南市
22(土)	ノクシカタ販売	堺市社会福祉協議会	堺市
23(日)	ノクシカタ販売	よかたん	三木市
25(火)	ノクシカタ販売	アスパ高砂	高砂市
29(土)	チャリティバザー	スーパーニシヤマ三田店	三田市
1(火)～7(月)	チャリティバザー	高円寺ギャラリーR	東京都
2(水)	チャリティバザー	垂水駅前東広場	神戸市
4(金)～5(土)	ノクシカタ販売	泉ヶ丘駅構内	堺市
6(日)	チャリティバザー	千種コミュニティセンター	市原市
6(日)	チャリティバザー	三木金物祭り	三木市
6(日)	ノクシカタ販売	住吉大社	大阪市
7(月)～12(土)	ノクシカタ販売	モノレール堂池駅構内	豊中市
19(土)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
19(土)	チャリティバザー	和歌山ビッグホエール	和歌山市
26(土)	チャリティバザー	アルザ泉大津	泉大津市
29(火)	チャリティバザー	アスパ高砂	高砂市

※その他詳しいことは、事務所までお問い合わせ下さい。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号

01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしくお願いいたします。

会員数：一般会員 742名
DCEF会員 878名
(10月1日現在)

ANGEL NEWS

通巻177号
2016.10① バングラデシュ・スタディツアー
② 国内ボランティア

スリジョニの子ども達

前代表（故川村百合子）が初めてバングラデシュを訪れた時、日本の終戦間もない頃の光景と同じものを感じたそうです。池の水で洗濯している人達、口をすすいでいる人達を見て、また純朴で優しい人々と接し、「この国に今一番必要なのは教育であり、この人達が教育を受ければきっとバングラデシュの国は良くなる」「物やお金を与えるよりも長い目で見て教育を受ける機会を作ってあげたい」と思ったそうです。そして、私達は今日までその精神を受け継いで活動を続けてきました。

7月1日にバングラデシュの首都ダッカで起こった日本人7人を含む人質20人が殺害されたテロ事件は、驚きと怒り、不安に襲われました。また多くの方からご心配や励ましの電話やメールを頂き、ありがとうございました。バングラデシュの人々も心を痛め、エンゼルホームでも亡くなられた方のための追悼集会が行われました。

長年にわたり政府やNGO団体、また多くの方が日本とバングラデシュの友好のために努力したにも関わらず、このような事件が起こったことは大変残念でなりません。バングラデシュには約1億6000万人の人がいます。その中の数人の行動で今まで築き上げてきた関係を壊されたくありません。バングラデシュのためにと熱い志を持ちながらも無念にも亡くなられた方達のためにも、支援を続けていきたいと思ひます。これからも国や民族、宗教を超えて、世界の人々の平和の為に、今までと変わらず活動していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 東村 眞理子

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

バングラデシュ・スタディツアー

6/16 → 6/23

～音楽を通じて心がひとつに～

南国の果物マンゴーやジャックフルーツが豊かに実る6月、スタディツアーが開催されました。今回職業訓練所（TTC）と識字教室の卒業式に参加し、現地の女性達は日本の女性の訪問をとて喜びました。

初めてバングラデシュを訪れた方、十数年ぶりの訪問となった方など、それぞれの参加者にとって大きな喜びと感動がありました。今回、ミュージックベル奏者である熊原さん親子が参加され、訪問した先々で演奏をしてくださいました。バングラデシュの人達は初めて見る楽器と美しい音色にとて喜んでいました。

また、エンゼルホームの子ども達はハンドベルを教えてもらいお別れ会で披露するなど、音楽を通じて楽しく交流することができました。

各プロジェクトの見学、カパシアなどの農村訪問では行く先々で人々の明るい笑顔に迎えられ、長年に渡って積み重ねられて来た日本でのボランティア活動による支援の成果を実感できたスタディツアーでした。



職業訓練所卒業式&DCEF奨学生の集い



エンゼルホームの子ども達と交流会
(紙のロケットとフェルトのケーキの作り)



YURIKOエンゼルスクールでのベル演奏



ノクシカタ刺しゅうをしている女性の家を訪問



参加者のお孫さんが中心となって建てられた
「花ちゃん図書館」を訪問

特集

エンゼルホームの子ども達が思い出を語る④

心のふるさとエンゼルホーム

スルタン・ウッディン・
プロダン

Md.Sultan Uddin Proddhan



私のお父さんは農業をしていましたが、土地を持っていなくて貧しい家庭でした。また、私が小さい頃にお母さんが亡くなり、生活はとて厳しいものでした。小学5年生の時、カパシア村の学校の先生の紹介で1996年にエンゼルホームに入ることができました。

それまで一人で遠くに出かけたことのなかった私は、初めて見たエンゼルホームの敷地が広くて怖くなったことを思い出します。でもすぐに慣れ、学校から帰ると毎日大勢の仲間達とサッカーなどをして楽しく遊びました。エンゼルホームの中にあるジャックフルーツの木に大きな実がなると、登って取るのがとて楽しみでした。毎週夕方のミーティングの時間にバリさんやスタッフの皆さんから将来のことについて助言していただき、その頃から自分の夢が描ける

ようになりました。

私はその後、ラジシャヒ大学の法学部に入り法律を勉強しました。川村百合子さんにはエンゼルホームでお会いする度に「がんばってね!」と励ましの言葉をいただき、一層勉強に力が入りました。大学院を卒業したあと、ウットラ大学の講師になり、現在はバングラデシュ北部のネトラコナ県の地方裁判所で判事補として勤務しています。また、結婚して2人の男の子のお父さんになりました。私の人生において、ここまでの道をつくって下さった国際エンゼル協会の皆さんに心から感謝しております。

私は今も時間があればよくエンゼルホームを訪れますが、そこにある土や木などすべてに懐かしい匂いを感じます。エンゼルホームで教えていただいた「時間を守ること、身の回りをきれいにすること、人を大切にすること、感謝すること」はこれからも大事に守っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



1996年当時のスルタン君(右端)

No.21

エンゼルホームの子ども紹介
サディアちゃん
Sumaya Tabassum
(10才)



サディアちゃんのお父さんは、彼女が生まれる5ヶ月前に家を出て行ってしまいました。そのためお母さんは縫製工場働きながら彼女を育てていましたが、次第に生活が苦しくなり2014年1月に叔母さんの紹介でエンゼルホームに入所することになりました。

彼女はすぐにエンゼルホームの生活に馴染み、他の子達と毎日楽しく過ごしています。クリケットや木登りも得意で、最近のお気に入りには自転車に乗ることです。また、歌や絵を描くのが得意で、踊りも上手です。いつも静かにニコニコ笑っているサディアちゃんは、いるだけでその場に優しい雰囲気を作り出しています。現在YURIKOエンゼルスクールの4年生で好きな科目は英語です。将来の夢は学校の先生になりたいというサディアちゃん、これからもしっかり勉強して夢を叶えて下さい。

2016 チャリティコンサート バングラデシュに学校を建設しよう



混声合唱団「エンゼル」



演奏後、ロビーにて

会場いっぱいのお客様

会場の声

観客のあたたかい拍手に力をもらい、無心になって力の限り太鼓を叩き続けた4人の輝いた顔が忘れられません。一生懸命ということがこれほど人を感動させるのかと改めて感じた今日のコンサートでした。これからも「はぐるま」の青年達の成長を見守り続けたいと思います。(50代男性)

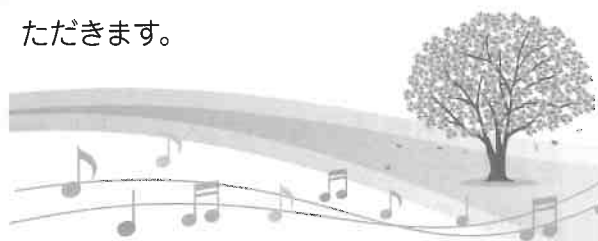
コンサートを終えて

混声合唱団「エンゼル」は20代から70代までの総勢40名のメンバーで結成されています。1泊2日の合宿を含め練習に励んだ私達の歌声は、どのように皆様に届いたのでしょうか。コンサート終了後には「客席と舞台が一体になって、やすらぎと感動が残った」「一生懸命さが伝わってきました」など、その他にもたくさんの感動の声を聞きました。皆さまの声を聞いて、頑張ってきた良かったとほっとした気持ちになりました。そしてこの思いを胸に、次に向かって前進しようと心新たにしています。私達と一緒に歌って下さる方が増えると嬉しいです。ありがとうございました。(女性団員)

9月3日、伊丹アイフォニックホールに於いて、チャリティコンサートを開催しました。

本協会の活動を紹介するスライドの後、混声合唱団「エンゼル」のコーラスと和太鼓「はぐるま」の演奏が行われました。

当日はまだまだ暑さが厳しい日でしたが、多くの皆様にお越しいただきました。そして美しいハーモニーのコーラスと勇壮な和太鼓の演奏に、会場は大きな拍手に包まれました。この日ご協力いただいた募金は、バングラデシュの学校建設費として役立てさせていただきます。



心温まるハーモニーの合唱



力強い和太鼓の演奏

アートフェスティバル を開催しました



7/22(金)~24(日)、当協会ボランティアセンターにてアートフェスティバル(チャリティ絵画展)を開催しました。国内外の有名な作家の絵画や版画など100点以上を展示販売し、たくさんのお客様にご来場いただきました。同時に開催した平野俊一、麒麟先生による絵画教室では、子どもから大人まで皆さんワイワイ楽しく絵に挑戦していました。

今回の絵画展は「地域の方にも気軽にボランティアセンターに来ていただきたい」との思いからセンターで開催しました。ご来場下さった方々にチャリティバザーなどでまたお会いできる事を楽しみにしています。



長松蒼太君(6)の作品

7/31日

東条研修センターピザ作り&外遊び

お姉ちゃん達は小麦粉をこねて生地からピザを作り、男の子達は外で虫捕りやプールに大はしゃぎでした。



コース部 夏休み企画

子ども達の夏休みの思い出作りにコース部主催でイベントを行ないました。子ども達にとってひと夏の素晴らしい思い出になったと思います。

8/27土

お茶席体験

先生の指導の下、日本の伝統「茶道」の基本を学び、貴重な体験ができました。



泣いて笑って
心温まる
講演会

仲島正教氏講演会

「あ～良かったな あなたがいて」～心の銀行にいっぱい貯金を～

8月3日、いたみホールにて教育サポーターとして全国で講演やセミナーが行われている仲島正教先生を講師としてお招きし、講演会を開催いたしました。先生のエネルギーでテンポのよい声が講演開始から場内に響きわたり、そして温かく包み込むような優しい笑顔で、子ども達との接し方や関わり方などについてお話をして下さいました。

「あなたは子どもの応援団長なんです。どんな時でも子どもを応援しているという事を態度や言葉で常に表してあげてください。そうすると子ども達の心に貯金が貯まり、まわりの人達に優しさを与える人になります」

参加者でいっぱいの会場では皆さん熱心に先生の話に耳を傾け、心温まる話に涙する人もいました。若い方や子育て真っ最中のお母さん達も多く参加され、「子どもを育てる中で何が大切か」を考える、とても貴重な時間となりました。



*当日ご協力いただきました募金は、バングラデシュの子どもたちのために役立てさせていただきます。

DCEFだより

奨学生からの便り — バングラデシュ

皆さん、こんにちは。私はマスダです。私の父は日雇いの仕事をしています。私はSSC試験(中学卒業資格試験)を無事終えることができましたが、父の給料だけでは高校に入学することは困難でした。高校への進学をなかば諦めていた時、高校の先生が国際エンゼル協会のことを紹介してくれました。幸運にも奨学金をいただけることになり、2007年に高校に入学してから今日まで奨学金をいただいています。私の人生は国際エンゼル協会の皆様のおかげでとても素晴らしいものになっています。

バングラデシュの学生のために支援してくださっている日本の国際エンゼル協会の皆さんに心から感謝しています。また、将来は学校の先生になって私のような境遇の学生達を支援したいと思っています。



マスダ
(バウルボドレアリム大学 大学院1年生)

DCEF (ディセフ)とは…
[Developing Country Educational Fund]

経済的に恵まれない発展途上国の子ども達に教育援助を行う里親制度。奨学資金の供与や学校校舎の建設・設備の充実、農村女性を対象にした識字教室等を行っています。また、バングラデシュ以外に、フィリピン、スリランカなどの子ども達にも支援しています。

連載コラム 4

仲島正教の優しい風
～ Loving-wind ～

心のビデオ



▲教育サポーター 仲島正教

ずっと以前にこんな映画を観ました。それはこんなストーリーでした。人間が亡くなったあと、あの世に行く前に1週間ほど学校のような施設に入ります。そこでこう言われます。

「今日から3日間のうちに、自分の人生でもう一度見てみたいシーンを選んでください。次の3日間でこちらがそのビデオを製作します。そして最後の日にその思い出の映像を見てからあの世に行ってもらいます」

そう言われた人たちは、どんな映像を最後に見たいか考えます。ある人は妻との思い出をもう一度見たいと言い、ある人は初恋の人との出会いがいいと言います。中には、自分の人生は嫌なことばかりだったから思い出したくないという人も現れます。そんな人間模様を描いた映画でした。

この映画を観た人は、みんな考えます。もし自分だったら何を映像にしてもらおうかと……。

☆ ☆ ☆

私はスキーが大好きで、学生の時も就職してからも、暇さえあればスキーに行っていました。そして結婚して子どもが出来たら「いつかは家族と一緒に滑りたい」という夢を描いていました。

その夢の実現の日がとうとうやってきました。姉が小学5年生、弟が小学1年生になった冬です。八方尾根スキー場名木山ゲレンデの上から、先頭が私、次にお姉ちゃんが、そして弟、一番後ろはお母さんです。

「さあ、いくぞ」「うん、いいよ」

私たち4人はゆっくりゆっくりと大きな弧を描いてゲレンデを滑り降りていきます。まるでカルガモ一家のようです。時々後ろをみると我が子が頑張っている。「なんていい家族なんだ」って幸せな気持ちが湧いてきます。ゲレンデの下にいるみんなに「おーい、こっちを見て」って言いたくなるくらいでした。滑り降りた後、思わず姉と弟を抱きしめてしまいました。

☆ ☆ ☆

親バカの私は当時けっこう高価だったビデオカメラを購入し、我が子の成長を撮り続けていましたが、このシーンはもちろん撮れていません。自分も滑っていたのですから……。

でも、これまでビデオカメラで撮ったどのシーンよりも、このカルガモ一家の滑りのシーンが一番記憶に残っているのです。あのシーンを思い出すと今でも幸せな気持ちになってきます。テープに録画されていなくても、私の心のビデオにしっかりと録画されているのです。そして心のビデオは機器がなくても、いつでも再生ができるのです。

私の場合は、わざわざ思い出の映像を作ってもらわなくても、心のビデオを見ながら幸せな気持ちであの世に行けそうです。